令和６年１１月１日

立教187年

11月号

第６２６号

宇（うに）仁

発　行　所
天理教宇仁大教会
〒677-0015 西脇市西脇770-4
電話 0795(22)4066番
FAX 0795(22)4072番
unigrandchurch@yahoo.co.jp

１１月１０日　宇仁大教会一斉団参

散歩道

明石から西脇を通って、京都の舞鶴まで走るのが国道１７５号線といいます。現在その国道の西脇市の部分で、バイパスが工事中です。重要な幹線であるがゆえに物資輸送の総量が多く、50年も前からバイパスの必要性が言われておりましたが、明石から始まった工事がようやく西脇市へ来たのです。しかし、今となっては、人口の減少が課題となっている西脇市で、これまでのように市内に入ることなく通過するトラック、人の流れは、経済的にマイナスの面が多いのではないかと言われるようになってきました。時代の流れは、やらなければならない重要なインフラへの考え方も、１８０度反対の方向へ変わってしまう事もあるようです。

振り返って、教会の設立が成った明治時代から、私たちの教会でやらなければならない事は時代に対応して変わって来たでしょうか。これは変わっては困ります。教祖の言葉を伝えること、この一点を忘れないように、今日も「おふでさき」の拝読に勤しみましょう。年祭への活動、にをいがけの形、おたすけの形。様々に工夫ができますが、変わってはならないことを再度かみしめて行動したいものです。

一理塚

教祖百四十年祭へ向かう三年千日の活動も折り返し点を過ぎ、諭達第四号の発布から丸二年が経った。改めて諭達の精神の一端を考えてみたい。

諭達第四号を読んでいくつか目を引くところがあったが、その一つが、

「教祖ひながたの道はまず貧に落ちきることから始められ」

という箇所である。教祖のひながたの初めは貧のどん底の道を通られたことはもちろん承知のことではあるが、今何故このことに諭達で触れられたのか。年祭活動をさらに推し進めることを念じて私考を試みる。

「貧におちきる」私考

稿本天理教教祖伝では、教祖が月日のやしろと定まられてからの中山家が、家財を次々と施され、ついには母屋も売り払われる様子が描かれている。その際教祖は「これから、世界のふしんに掛る。祝うて下され。」と仰ったと記されている。

また逸話篇には「私は、夢中になっていましたら、『流れる水も同じこと、低い所へ落ち込め、落ち込め、表門構え玄関造りでは救けられん。貧乏せ、貧乏せ。』と、仰りました。」とある。

「貧に落ちきる」とはどういうことか。

自らの所有物を手放すことによって、物質的な富や地位などへの執着を去り、精神的な成長を得ることができる。大変に大きな意味のあることだ。がしかし、「貧に落ちきる」ということは、単にそれにとどまらずに、人だすけ、世界だすけへの志が見て取れる。

困難な状況を自らが体験することによって、他者の痛みや苦しみを共感し、手を差し伸べることができる第一歩になり得るということを示されていると考えられる。そしてそのたすけの心と行いがさらに私たちを成長させる。

諭達では「貧におちきる」ことへの言及に続いて、「水を飲めば水の味がする」との教祖のお言葉が紹介される。この言葉は人間生活の中で究極的とも言える安定した豊かな心持の状態、人としての謙虚さや困難に直面した際の心の強さなど、「どんな中でも親神様の大いなるご守護に感謝して通る」境地を表している。が同時にやはりこの境地も他者へのまなざし、たすけの心がベースになっていると思われる。教祖伝によればこのお言葉の前に「世界には、枕もとに食べ物を山ほど積んでも、食べるに食べられず、水も喉も越さんと言うて苦しんでいる人もある。」と仰っているのである。

諭達にお示しいただく「貧におちきる」というのは他者を思い、困難に直面している人に共感を持ってたすけの手を差し伸べることのできる心をつくることであると考える。

物を人に施して自分が貧乏になることによって心が作れるならそれもよいし、他の方法でそれができるならそれもよし。困難な道に自らをおく、ということはしんどいことではあるが、自らを成長させる道でもある。

諭達では「水を飲めば水の味がする」に続いて「ふしから芽が出る」とのお言葉が紹介されている。

ずつないことはふしと思うがよろしい。ふしから良き芽がふき、楽しみの道見えてくるのであります。と別席のお話にあったように記憶する。「貧におちきる」しんどい道も「ふしから芽が出る」ことを楽しみに、たすけ一条の道を歩ませていただきたい。

年祭活動は私たちのたすけ一条の歩みを一層活性化させる旬である。お道のたすけは高いところから弱者を救済することではない。「貧におちきる」というのはまさに陽気ぐらし、世界だすけへの第一歩になる心の持ち方なのである。

西津萬分教会四代会長に
阿江利一氏が就任

去る九月二十五日のお運びで、阿江利一氏が西津萬分教会四代会長の理のお許しを戴かれました。

氏は、昭和三十九年四月生まれで今年はちょうど還暦。昭和五十七年おさづけの理拝戴、同六十年専修科卒業。博美夫人との間に二女。今後の益々の活躍が期待されます。

なお、就任奉告祭は十一月二十三日に執行されます。

能登半島災害支援

九月二十一日から二十三日にかけて、能登半島は記録的な豪雨に見舞われました。河川が氾濫し、多くの土砂が街を埋め尽くしました。地震後に片付けの手伝いをしたお宅も泥だらけになっていました。炊き出し支援で手伝っていただいていた輪島市内のスーパーは店をたたむことを決められました。家から荷物を運びこんだ出来たばかりの仮設住宅も床上浸水をしていました。年始に起こった大地震から漸く立ち直りかけた中での被災となりました。現地に数回しか入っていない私ですらやるせない気持ちであるのに、被災者の方々の悲しみや辛さは計り知れません。

地震から十ヶ月が経った今でも、家屋の解体が遅々として進まず倒壊家屋が未だに被災直後の景色のまま残っている所が多くあります。地震によって土地が激しく隆起し、インフラ再建にも多大な時間と労力が必要なのは明白です。能登半島は三方が海に囲まれており交通の便も悪く、復興の為の業者やボランティアが集まりにくいのが現状でもあります。そんな中でも現地の被災者の方々は一日も早い復興に向けて尽力されておられます。

この甚大な被害に対して、現地に行ってできることは、多くの困っている方々の中から僅かな人数の方々へのお手伝い程度しかできません。しかし、そこに喜ばれ助かっていく種があるのならば、微力ではありますがの元気に動かせていただける身体で出来ることを続けていきたいと思います。

杉原谷分教会　今中英輔

教祖一四〇年祭
宇仁大教会一斉団参
『ぢばの理を戴く』
～おぢばがえりの推奨～
おぢばに心を寄せて足を運び、
真実をつくしはこび、伏せこむ

日　程　立教187年11月10日（日）

内　容
- 1：30　おつとめ
  - 本部お願いづとめ
  - 教祖殿・祖霊殿参拝
- 12：30　昼食（詰所）
- 13：30　伏せ込みひのきしん（本部神苑）
  - 別席（希望者）
- 15：00　閉会（東礼拝場前）
  - 大教会長様あいさつ
  - 解散

『宇仁会報に見る大教会史』第92回

⑥平成という時代

（5）

阪神淡路大震災に対する本教の始動は驚くほど速かった。

西田災救隊本部長は、震災直後にバイクを飛ばして現地へ駆けつけ、自身の目で仔細を見て回った。そして直ちに必要なものを本部に指示し、早速翌日から救援物資の搬送を開始した。さらに若い隊員たちに、とにもかくにも被災現場をその目で見てくるように促し、「物・人・心の救援」に当たるよう指導した。

宇仁会報平成七年三月号(第二七〇号)の巻頭言には「一れつはみなみなわがみきをつけよ月日ゑんりょわさらにないぞや」とのおふでさきを引用し、大自然の遠慮のない力を見せつけられた今こそ、火水風の偉大なるご守護に畏敬と感謝の心をもって、たすけあいの誠に尽くさねばならないとの意を示している。

同じく三月号には、被災地に続々と現地入りして救援ひのきしんに勤しむ教友達の姿を写真入りでレポートしている。

また、詰所や周辺の主だった教会が被災者の受け入れを次々に表明したが、すでに震災直後から避難所として活動している教会もあった。兵庫教務支庁では災救隊の拠点となるとともに、ひのきしん者や一般ボランティアの宿泊・食事をはじめ、救援物資の集配に尽力した。

宇仁では、兵庫中央分教会がおぢばからの災救隊の宿泊場所として直後から受け入れを開始している。

比較的おぢばに近い場所で起きたこの大震災は、後々続く様々な自然災害に対応するための試金石となり、難儀する兄弟姉妹たちへの本教のいち早い対応は、行政やマスコミから高く評価されるところとなった。

婦人会より

◇大教会炊事当番

１１月　中河合
１２月　豊　原
１月　神福Ａ

よろしくお願いします

教祖と共に歩む三年千日

大教会布教実動日

『教祖のお供に歩かせて頂く日』

毎月15日　午後1時30分　大教会神殿集合
戸別訪問・振り返り　午後三時三十分解散

『親神様の神名を世界へ流す日』

毎月24日　午後1時30分頃　大教会神殿集合
神名流し　午後二時　終了

宇仁女子青年
「こかん様に続く会」

日時：11月10日（日）
12：30（詰所集合）
昼食
支部長様ご挨拶
鳴り物練習
ひのきしん
15：00（解散）

おぢば通信

九月のうごき

◎任命講習会　修了
阿江利一

◎初席者
久樹三谷禎勇
和道高杉咲妃
豊原宮崎みさ子

をびや許し
神羽伴　みさき
西脇篠原笑美

◎九月帰参者
一二九名
（詰所調べ）

11月行事予定表

3・4日　ようぼく一斉活動日
6日　青年会例会
9日　婦人会例会
10日　宇仁大教会一斉団参
15日　布教実働日
19日　少年会例会
24日　大教会月次祭
午前10時30分執行
神名流し
26日　本部月次祭
午前9時執行